

令和6年度第1回竹田市総合教育会議 会議録

- 1 開催日時 令和6年9月5日（木）午後1時30分から
- 2 開催場所 竹田市役所2階庁議室
- 3 出席者
市長 土居 昌弘
教育長 志賀 哲哉
教育委員 吉野 聖子
教育委員 岡 茂樹
教育委員（教育長職務代理者） 甲高 幸一
教育委員 進 みづほ
- 4 本会議に説明のため出席した者の職・氏名
教育総務課長 羽田野京子
学校教育課長 渡邊 幸美
生涯学習課長 藤島 勲
まちづくり文化財課長補佐 真田 博幸
歴史文化館長 佐藤 晃洋
竹田中央学校給食共同調理場長 甲斐 正寿
社会福祉課長 後藤いずみ
事務局員 総務課長 筑紫 聡
総務課課長補佐 野仲 康弘
教育総務課課長補佐 古澤 邦利
- 5 議事日程
 1. 開 会
 2. あいさつ 市 長
教育長
 3. 協議事項
(1) 「竹田市教育推進大綱」の改定について
 4. 報告事項
(1) 竹田市小中学校の統合について
 5. その他
 6. 閉 会

〔開会時刻:午後1時30分〕

筑紫総務課長

それではただいまから令和6年度第1回竹田市総合教育会議を開会いたします。私は総務課長の筑紫と申します。

よろしくお願いをいたします。

まず最初に土居市長がご挨拶申し上げます。

土居市長

皆さんこんにちは。本日は、令和6年度の第1回総合教育会議をご案内したところ、皆さんご参集いただきまして心から感謝申し上げます。

この教育総合会議は、教育委員会そして市長部局が一体となって、教育問題の課題に取り組んでいくための会議でございます。様々な課題解決に向けて、力強く前進していきたいと思っているところでございます。

市長部局と教育委員会が一緒になって、竹田市の子どもをしっかりと育ていきたいという思いで設置しているところでございます。

後程説明もあると思いますが、小中学校の統合の問題がございます。

現在、直入中学校、菅生小学校、城原小学校、白丹小学校で若干予定していた統合年度が延びているという現状がございますので、これをどういう方向で持っていけばいいのかというところも、ご議論いただければなと思っているところでございます。

以前から申し上げます通り、この統合に関しましては、まず、統合の目的、それぞれの学校における教育力をきちんと整えたい。そして、それぞれの学校の、その高い教育力でもって、すばらしい子どもたちを育てていきたいという願いです。

この願いを成就させなければなりません。

実現させるために、引き続きお力添えを賜りたいと思っているところでございます。

また、本日の協議事項では、竹田市教育推進大綱の改定について、議論をいただきたいと思えます。

この2件につきましてこの会議で、ご協議いただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

筑紫総務課長

ありがとうございました。

続きまして、志賀教育長がご挨拶申し上げます。

志賀教育長

皆さんこんにちは。ご多用の中お集まりいただきありがとうございます。

教育の世界で変わらなければならないものと、変わってはならないものがあります。

よく不易と流行と言いますけれども、流行の中には、ICT教育であるとか、昨今であれば、部活動の地域移行等があります。

これは、自分がアナログ人間だからと敬遠するわけにもいきませんし、昔からずっとやってきた伝統だからといって変えないということではありません。必ず変えていかなければならないことであります。

不易と言え、子どもたちに未来を切り開く力を育むであるとか、心豊かな人間を育てようと、そういったことです。

具体的に言えば、確かな学力、人間関係、豊かな心、心やさしい人間を育てるということだと思えます。

それらを実現するのが、個別最適な学びと協働的な学びです。個別最適というのは、タブレットが1人1台ありますので、個人に合った学びをするということではなく、「個別」の学びでなく「最適」という言葉が付いていますので、自分の考えを確立して、問いが生まれて、他の人と比較して練って、かけがえない自分をつくるということです。それから、協働的な学びとは、多様な他者とともに高め合うということです。

それには、適正規模であるとか、包摂的な教育が求められていると思っています。

これまでの竹田の教育を振り返ってみると、どんなに崇高な理念を掲げても、いつかできればいいなという計画であっては絵に描いた餅であって、長く学校教育に関わってきたものとして、反省するところが多くあります。

例を挙げると、例えば英語教育は平和教育と長らく言われてきましたけれども、使えないままであれば、平和を望んで、平和を願う意見表明を世界各地に伝えるということはできません。

それから、市町合併当時から、学校の再編については、計画というかプランがあったわけですが、ここ数年やっと動き出しているところです。

求められる令和の日本型教育実現に向けて最大限の努力をしていきたいというふうに考えております。

皆さんどうぞよろしくお願いいたします。

筑紫総務課長

ありがとうございました。

それでは早速協議事項に入りますが、竹田市総合教育会議設置要綱第5条第1項により、会議の議長は市長をお願いいたします。

よろしくお願いいたします。

土居市長

はい。

それでは議長を務めさせていただきます。

1つ目の竹田市教育推進大綱の改定について、説明をお願いいたします。

野仲総務課課長補佐

総務課の課長補佐をしております野仲と申します。

私から、竹田市教育推進大綱の改定についてのご説明を差し上げたいと思います。座って説明をさせていただきます。

資料の1をご覧ください。タブレットの中に入れてあります。

まず、3ページ目になります。

策定の趣旨でございますけれども、平成26年6月の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴いまして、地方公共団体の長は、教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術、及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとするされました。

またこの中で、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、地方公共団体の長と教育委員会との連携強化などについても謳われているところでございます。

竹田市ではこの改正法に沿って、竹田市教育推進大綱、第1期が平成27年から令和元年まで、第2期が令和2年から令和6年までを策定しております。

この大綱は、教育基本法第17条第2項の規定に基づいて策定され、どういう人材をどう育てるのかといった、教育振興の根幹でありまして、基本理念としています。

また、来年度見直しが予定されています、竹田市長期総合教育計画は、竹田市の教育推進大綱に示された項目についての具体的な実施計画となるものです。平成27年に策定されました第1期竹田市教育推進大綱は、令和2年度から令和6年度までの第2期のときも、改定をせずに継続をされてきたところです。

この現行の大綱が、今年度、令和6年度末で終期を迎えること、加えて、令和5年3月に竹田市総合計画が策定されたことなどを踏まえまして、令和7年度からの新たな5年間、第3期の大綱について今回改定を行うものです。

大綱の位置付けと期間というところではありますが、今ご説明を差し上げましたけども、この大綱は本市の教育行政を推進するための基本指針となるもので、第2次竹田市総合計画と、整合性を図るとともに、竹田市教育委員会が策定する竹田市長期総合教育計画とも連動するものです。

また本大綱の実施期間は令和7年度から11年度までの5年間とします。

その他の各計画との関係図については下の表をご覧ください。

次のページにいただきまして、3番の基本理念というところです。

今度の新しい大綱における基本理念につきましては、「他者とともにある かけがえのないわたし、自分らしさから人らしさへ」となっております。

これが今回の大綱の基本理念ということになります。

この理念につきましては、この大綱の冒頭に、「はじめに」というところで、土居市長から、言葉をいただいているところがございますので、その部分をお読みいただければと思います。

それから4番の基本方針ではありますが、基本方針は4本ございます。

まず1番目。「情報を活用しながら自分の考えを形成し、主体的に学び続ける（学校教育）」です。2番目が、「多様な他者と協働し、スポーツ、文化活動に親しむ（生涯学習）」です。3番目、「地域に根ざした暮らし、文化、芸術を受け継ぎ、深化する（文化・芸術振興）」であります。4番目、「あらゆる他者を価値ある存在として尊重する（人権、包摂的社会）」ということになります。

本日の会議では、大綱の改正の案を皆様にお示しをさせていただいたところでございます。

なかなか今日の会議で承認をいただくというのは、難しいと思いますので、今後のスケジュールとしましては、次回、10月4日の金曜日に、第2回の竹田市総合教育会議を予定しております。その場において、ご承認をいただければというふうに考えております。

そこでご承認をいただければ、令和7年3月の議会の全員協議会で説明をした上で、策定としては令和7年3月の策定といったところを予定しているところでございます。説明は以上になります。

土居市長

はい。ありがとうございました。大綱の案を今お示しいたしました。

基本理念、『他者とともにある かけがえのないわたし、「自分らしさ」から「人らしさへ」』という理念を掲げ、令和7年度から令和11年度の教育を進めて参りたいと考えているところであります。

「はじめに」というところで、少々私のその理念にかける思いを、書かせていただきましたが、今、私たちが生きている社会は、近代合理主義の社会です。

合理主義というのは、デカルトが「コギト・エルゴ・スム」と言ったように、「我思う、ゆえに我あり」から始まっています。自分の存在を自分で意識することが存在なんだということなんですけども、それがどんどんどんどん進んできて、自分中心になってしまっている現状があります。

特に利己的な自分というところにまで、今、社会はなってしまっているのではないかなと危惧をしているところであります。

環境に害を与えるかもしれないと思う活動やそういうもろもろの、危害を加えるというエコテロリズムというのも今流行っていますよね。

絵画にトマトのソースをかけたり、ローマのトレビの泉を黒い水に変えたり。

また、自分さえよければよいというところで、難しいんですけども、政治の世界も、よく極右とか極左とか、右の世界だけでいいと、左の世界だけでいいという方が、実は日本はそうでもないんですがヨーロッパなんかは、極右の皆さんがどんどん増えているという状況もあります。

個の充実、個人主義の充実を掲げたところ、自分ばかりに目線がいて、他者を気づかうことが少なくなった。

金子みすゞの「みんなちがって、みんないい」というのは、お互いが尊重し合うというところを言いたいんですが、「自分勝手にいい」と、いう考えに陥ってしまっている社会があるんじゃないかなと思っています。

人間というのはそもそも間柄存在と、和辻哲郎が言ったんですけども、関係性やご縁の中で生かされています。そこを再度、強調した教育をして、本当に人間らしい竹田市民を育てていきたいなと思っているところでございます。

そういう思いでこの理念を作ったところでございますので、これから数ヶ月、見ていただき、また、様々なご意見をいただきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

この案につきまして、ご意見のある方は、と言っても言いづらいでしょうけども、何かありませんか。

「はじめに」のところの一番最後に、ヘーゲルの言葉で「アウフヘーベン」という言葉使ったんですけども、これ基本的に仏教で言うと「生死一如」、死と生が一緒であるとかという意味でということに持っていきたいということで、「私」と「あなた」、そして、「私」と「公」、これが対立するものではなくて、両者を1つにしていかなければならないということで書いた文章ですので、その辺をご理解いただければなと思っています。いかがでしょうか。

はい。岡委員

岡 委員

はい。岡と申します。

今、基本理念を見させていただいて、率直な印象を申し上げたいと思います。

まず市長の根本的なお考えには大賛成で、やはり思いやりこそが今求められているというか、仏教で言うと「利他の心」だということだと思うんですね。

今の教育ずっと見てると、競争の社会で、他人を蹴落として、できるだけ自分が上に行くとか、それから自分ばかり良い生活をするための能力を身につけようって躍起になっているという風潮を、何とか変えていかないといけないなとずっと思っていたので、方向性としてすごくいいと思います。

それで、基本理念の言葉の中でちょっとわかりづらいのが「自分らしさから人らしさへ」というあたりが、正直ちょっと掴みどころがないというところ

があります。理念の世界なので、こういう言い回しになるのかもしれないんですけども、「自分らしさ」と「人らしさ」の対比が気になると思いました。

あと基本方針についてはもう、この通りだと思っています。

もう 1 つは、僕は子どもたちをずっと見ていて思うのはやはり、月並みですけど志をとにかく高くもって欲しいというか、自分の可能性を決めてしまわないで欲しいなっていうのがあるので、そういう思いを込めることとやはりそのためには、やっぱり努力しないと駄目なんだっていうことですね。そこを合わせたところを、理念の中に何か謳われて、その上で、それは何のためにあるかといえば、人を思いやるため、人を支えるために自分の力をつけていくんだという発想がやっぱり求められているのかなというふうな気がします。

土居市長

ありがとうございました。まさにおっしゃる通りであります。

他者をどうとらえるかというところを、この大綱の理念で謳っています。

「自分らしさ」から「人らしさ」というその「自分らしさ」という言葉は、当然、「自分らしさ」を出していけるようにして育むんですけども、その過程で、これまでを振り返ってみると、ついつい「自分勝手らしさ」に陥ってしまっているというところを反省して、社会的な動物である人としてあるべき姿、そこを大事にして、自分も大切ですが、地球上で唯一自分だけは、自分であるんです。天上天下唯我独尊というようにですね。

自分は自分だけでしかない。でも、他者も、あなたもあなたでしかない、あなたでしかあなたにはなりえない、そのことを理解できるようにしていきたいと。

他人を思いやる心をもう少し加えていきたいと思っています。

そして、他者とともにあるというのは、先ほどございましたが、協働的な学びというところなんです。そして「かけがいのないわたし」というのは、個別最適な学びをしていこうというところで、この 2 つ、大きな課題を自分なりの言葉に変えてみたところでもあります。ということでお願いいたします。

はい。

ありがとうございました。

それでは次お願いいたします。

筑紫総務課長

ありがとうございました。

それではこれから私の方で進行させていただきますが、4. 報告事項であります。「竹田市立小中学校の統合について」というところで、教育総務課からご報告させていただきます。

羽田野教育総務課長

教育総務課長の羽田野です。では掛けて説明させていただきます。

続いての資料、報告事項をご覧ください。

竹田市立小中学校の統合についての基本的な考え方としては、急激な少子化による児童生徒数の減少に伴い、小中学校の再編を竹田市長期総合教育計画（平成 28 年策定、令和 3 年 4 月改訂）に基づき進めています。

竹田市内の令和 5 年度の出生数は 58 人と統計をとり始めて最少の人数となり、前年度より 8 名減っています。

竹田市として一番に考えなければならないことは、児童生徒の最適な教育環境を整備し、教育の機会均等と質の向上を図ることです。

小規模校のよさを検証しながら、小学校では複式学級の解消、中学校では、クラス替えのできる1学年2クラス以上で、すべての教科の教諭の配置を目指していきます。

現在の状況については、令和3年度の計画開始の際、対象となった3つの小学校と3つの中学校のうち、都野中学校と久住中学校は、ご存じの通り令和5年4月に竹田中学校に統合しました。

直入中学校と小学校3校のうち、菅生小学校は当初目標年度が令和6年度でしたが、統合検討委員会で、令和7年度からと決定し、来年度の4月から南部小学校と統合します。

城原小学校と白丹小学校、直入中学校は当初、統合目標年度が令和5年度でしたが、統合年度については決定しておりません。

昨年末に、いずれも目標年度を令和7年度に1年繰り下げましたが、本日、議題の最初に取り扱った教育推進大綱の市長協議の際に、併せてこの目標年度についての協議を行いました。

教育委員会としては、いずれの学校でも、少しでも早くとの思いで、1年ずつ延期する形をとって参りましたが、令和3年度から提案しているにもかかわらず、また、年度当初に提案をしたときに、次年度では準備ができないですとか、早急であるとの意見をいただくことが多々ありました。

これを踏まえて、ここで目標年度を令和8年度、令和8年の4月1日からの統合と定め、1年半の協議準備期間を設けて、提案させていただくこととしました。

これからそれぞれの学校で、意見交換会等の際に具体的な案を持って提案していく予定にしております。

今後の学校統合の進め方については、別紙に統合までの説明会等の流れを準備したんですけれども、これもご覧になっていただきながら、それぞれの小中学校ごとに説明をさせていただきます。

まず菅生小学校です。令和7年度の統合が決まっています。現在令和6年度の児童数については、学級数が2つ、人数については4名ということになっています。校長以外の教員は、教頭、担任2名、昨年度は1名会計年度任用職員の教師でしたが、今年は加配ということで、1名ついている形になっています。学校主事1名、学校司書1名で養護教諭はつかない形で運営していただいております。

こちらにある児童生徒支援加配が統合前の、最終年と統合後の初年度、来年度は南部小学校に1名つくという形の加配がっております。

今年度は、統合に向けて受け入れ先の南部小学校との交流を継続して行っていく、それからスクールバスの準備や閉校行事など、7年度の新体制の準備を進めているところです。7月1日に、菅生のスクールバス説明会を行い、現在、南部小学校に通っている菅生地区の子ども、それから竹田南部中学校の子どもたちも合わせて、保護者に対して児童生徒の乗降場所や時間、ルートについての案を提示し、今後のスケジュールについて説明をしたところです。

今後、閉校準備、閉校記念式典等も行っていく予定になっているので、支援していくことになっております。

城原小学校についてです。令和5年度は保護者との意見交換会はできませんでした。

昨年11月末に、目標年度の延期のお知らせを保護者宛に送付したところです。

2月に統合検討委員会を予定しておりましたが、自治会長会会長名での中止の申し出があったため、中止となりました。

今年度は4月に自治会長会、城原小PTA総会時に挨拶を行い、6月にPTA総務部と意見交換会を行いました。

その中で今までの説明と内容が変わっていない、今までの市教委のやり方に不満がある、今までに出された意見等の回答がないなど、マイナスの意見が多く出されました。

PTA総会時に再度PTA会員全員と意見交換会を行いたいとお願いいたしましたが、11月末に150周年祭がありますので、それが終わるまでは意見交換会は行えないとの回答でした。

そんな中で、自治会長会など地元の方が中心となって、城原小学校のあり方を考える城原地区内協議会を7月25日に開催しております。

教育委員会は呼ばれておりませんが、依頼を受けて、全校児童数の推移や今後の児童数推計表を資料として提供いたしました。

当日の顛末については、城原地区館長からまとめたものをメールでいただいております。

協議事項については、協議会規約の承認については承認。それから、2番目に竹田市教育委員会に提案すべき2点として、統合時期については事務局からの令和9年度末の統合案が提出されたそうですが、小学校のPTAの役員の方からは150周年と、竹田会場の県Pの大会が1月にあるそうですが、それが終わらないと集中協議ができないという回答意見が出されたそうです。

また統合した際の教室数の不足についての回答をもらっていないとの意見が出されたということです。

それから、統合検討委員会の構成員については、地区内で協議した会員を基本構成としたもので、検討委員会の設置をお願いすることとするという内容もあったそうです。

それから令和6年度の協議会の開催予定については、令和7年2月に次の協議会を開催し、それには教育委員会にも参加してもらって、小学校PTA保護者に対して、回答ができていない部分を含め、協議することになったということでした。

地域で、こうした協議会を立ち上げて協議してくださるのは大変ありがたいことですが、教育委員会としては、統合の主体である学校と、保護者との意見交換を進めていかなければなりませんので、引き続き学校と保護者へ働きかけていく予定にしております。

それから白丹小学校は、令和5年度はPTA役員挨拶と説明会、意見交換会を行いました。統合に反対する内容の意見が多く出されました。

2月に統合検討委員会を行いました。構成員のところ、都野小学校が入っていないのはなぜかという部分で話がまとまらず、不成立となりました。

今年度は、昨年同様に4月に、久住地域、白丹地区で挨拶を行い、6月の自治会長宛文書で白丹地域の方全員に、白丹小学校の今後のあり方についての文書を配布して、これまでの経過をお伝えしております。6月にPTAとの意見交換会を行いました。

反対の意見や短期間での統合は難しい、ロードマップを作成して欲しいなどの要望、意見が出ました。

近いうちに再度説明会を行う約束ができていますので、検討委員会も早く立ち上げができるようにしていきたいと思っています。

それから、直入中学校についてです。

令和5年度は、PTA主催の直入小学校、直入中学校の合同の説明会とアンケート調査を行っています。

アンケートで出された意見や要望をもとに、10月から11月にかけて、小学校と中学校それぞれで意見交換会を行いました。

いずれも反対する方の意見が多くありましたが、統合後のスクールバスのルートや部活動などについての具体的な資料が欲しいという意見もありました。

1月に直入地域の意見交換会を行いました。前向きな意見はあまりなく、統合反対の意見が多く出されました。

2月に開催予定だった統合検討委員会については、直入町の自治会長会、直入中学校の存続を考える会、直入地区住民代表有志の3団体の申し出によって中止となっています。

今年度は4月に自治会長会で挨拶を行い、6月にPTAと意見交換会を行っています。

小規模なままで合併しなくてよいなどの意見が多かったところです。その時は、31P家庭のうち12家庭の方が来ています。

12家庭14名の参加で、7名の方から意見要望をいただきました。

それはすべて、いずれも反対の意見でした。

14名中7名ですので、半数の発言のなかった保護者の方ですとか、参加していない19家庭の保護者の方の意見が聞けていない状況ですので、その方々の意見を聞く方法を考えなければならないのかなと思っていますところ。

10月の広報たけたには、次世代を担う子どもたちの教育環境の充実と題して、学校再編の方針と、児童生徒数の推移表、竹田市長期総合教育計画の改訂に向けたアンケート調査を行うことについてのお知らせをすることを予定しております。報告は以上です。

筑紫総務課長

ただいま報告を行いましたがこの事項について、ご質問等があればお受けしたいと思います。

土居市長

私から質問ではございませんが、教育委員会の皆様に一言お礼と、そしてまた今後のお願いを申し上げたいと思います。

まずは、本当に日々この統合問題に向き合い、そして地域の学校の皆さんにご理解いただこうと、ご努力をされていることに、心から感謝申し上げます。

本当にありがとうございます。ですが、先ほど述べた学校におきましては、当初の統合目標年度をすぎるということになりました。

説明会では反対される方々が多く参加して、声の大きい反対というご意見いただくんですけども、もちろんそういうご意見もありますが、片方で早くしてくれよという方々の声をよくよく耳にします。

そして、大変残念なことですが、この統合が延びた学校の校区に住む方々が、大きな学校の方に家族ごと、引っ越している現状が多々あります。

統合対象の学校の地域コミュニティも私は大事だと思うんです。

やはり、貴重な地域を支える同士が、学校の統合でいなくなっているという現状も、私は大きい課題ではないかなと思っています。

そういう現状も踏まえて、これからロードマップを示して欲しいという、統合対象の保護者の皆さんからの要望がございますので、この令和8年4月に統合という、ロードマップを作ってこれから活動したいということですので、私

は大いに結構だと思いますし、また、ご尽力を賜りたいと伏してお願い申し上げますところでございます。

筑紫総務課長

はい。どうぞ。甲高委員。

甲高委員

今、ちょっと市長の話ともかぶってくるかもしれないんですが、私たちの地域の方々から、統合について賛成、反対の様々な意見を直接伺ったりもしてますし、城原の説明会にも私も何度か参加させていただいて、その場の会場の方からも、ずっと賛成だけど、やっぱ意見が言いにくいとか、地域の方々が皆なんか、コミュニティが仲がいいので、そこで意見を言うと、近所間だったり、そういう面で今後いろいろあるかもしれないとかいう不安の声も実をいうといただいています。

当然、私たちもそうですが、自分の母校がなくなるというのは絶対寂しいし、私たちも本当はしたくはないけど、基本、子どもたちのことを考えたときに、絶対必要になってくるんじゃないかなあということで私たちも、私はそういうふうに地域の方々にも言うし、説明もしています。

勘違いをされている方も、結構おられます。

そういうことも含めて、今後大変だと、ご苦労だと思いますが、地域説明会だったり、先ほども、今後も実施していく予定だということですので、しっかり説明をしていただいて、ご理解いただきながら、活動していただければと、いろんな意見も私も聞いていますのでまた別の機会でもお話をしますが、ご苦労かと思いますが、今後ともよろしくお願いしたいというふうに思っています。

筑紫総務課長

ありがとうございます。

はい。岡委員。

岡 委員

統廃合の件について、私もいろいろ思うところが多々あって自分の母校の久住中もなくなるときの思いなんかかなり背負って、今を迎えているところです。

今、子どもが竹田中学校に通うようになったんですけど、賛否あったとしても子どもの様子を見てみると、統合してよかったなっていうのが正直な感想です。

統合について1つ思うのは、前向きなビジョンをもう少し示していくことも大事ななというふうに思っています。

実際、人口動態を考えると、これから総合計画も変わりますが、これからの5年って多分、相当インパクトのある変化を、竹田市も迎えざるをえないと思います。そうなればやはり支え手の減少もそうですし、予算も減少する、その中で、どう質を担保するかってのはもう喫緊の課題になると思ってまして、ある程度資源の集中は必要な面があるのかなと思っています。

その時に、資源等を集中して何ができるかっていうと、僕は前回、教育定例会でも提案したんですけど、教育長も英語の町にしたいという思いもおっしゃっていましたが、ALTを竹田市独自で増員して、いつも身近にネイティブの方がいる、イメージな環境を作ってあげるとかですね、英語圏の姉妹都市と提携したり交換留学したり、そういう“規模を集約する”ことによって何か展開ができないか。

また、例えば竹田中学の場合、今の規模だとできないけど例えば直入中の子どもたちが合流すれば、こういうことができるようになるのかというようなビジョンを、学校任せじゃなくてその竹田市全体として何か描いていくっていうことも、1つ説得力のある材料かなというふうに思っています。

それと逆になるんですけど、もう1つやっぱり受け皿が重要じゃないかと思っているのは、規模が大きくなればどうしてもそこに合わない子どもが出てくると思うんですよ。

ちょっと前、講演会を聞きに行ったとき、これ言い得て妙だなと思ったのは、学校に馴染めない子どもは、靴を探すのと似ていると。結局、履こうとするけれども、どうしても大きいとか、逆にどうしても小さすぎるとか、その子にしてみれば、やらないといけないのは自分に合う靴を探すっていうこと。

というふうに考えると、仮にどんなにいい学校であってもそういう環境に馴染めない子どもがいることを前提に、その支援するために、今、竹田市、サフランがありますんで、その支援をさらに充実させること、それからもしくは民間の方と連携をしっかりとって、そういう子どもたちのサポートも両方で見ていくということも、その統合についてはいるのかなというふうには思っています。

おそらく統合に反対されている方も、人数がある程度のスケールの中でやっていくメリットっていうのは十分理解されてると思うんですけども、じゃあ今自分たちの母校をなくしてまで、それをする必要があるのかっていうところのせめぎ合いだと思うんです。

1つ思うのは、誰の目にもその弊害がわかるレベルまで学校が達したときっていうのは、そうなる手前の過程を過ごす子どもたちの学ぶ環境もおそらく、相当程度、デメリットをこうむった中で、学んでいるんだということを考えると、もう少しいけるんじゃないかと思う段階で、ある程度対策を打っていくっていうところはやっぱり、大人の責任と言ったら、ちょっとまた反論があるかもしれませんが、必要なことじゃないかなと思います。以上です。

筑紫総務課長

ありがとうございました。他、よろしいでしょうか。
市長お願いします。

土居市長

ありがとうございます。

それぞれの学校で教育を実施している訳なんですけども、それぞれの学校の保護者の皆さんというのは、それぞれの学校の教育の仕方とか、その教育の雰囲気ぐらいしかわかってないと思うんです。

そこを、いろんな学校の教育、他校はこんな教育をしてるんだというところを、どのようにして共有してもらおうか、というところもとても重要ではないかなと思っています。

一番難しいところなんですけど、そこをやっぱり、何とかしていただけるとありがたいなと思っていますし、私も引き続き知恵を絞って参りたいと思っています。

ありがとうございます。

筑紫総務課長

他、ご意見等よろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。

続きまして、5、その他になりますが事務局からは特にはございません。

全体を通じて等でも結構でございますが、その中で何かありましたら、お願いをしたいというふうに思います。

よろしいでしょうか。はい。ありがとうございます。

それではこれをもちまして、令和 6 年度第 1 回竹田市総合教育会議を閉会いたします。

大変ありがとうございました。

[閉会時刻:午後2時17分]